

数値情報が防災マニュアルの説得プロセスに及ぼす影響

○島田英昭
(信州大学教育学部)

問題と目的

防災マニュアルには内容の理解に加えて、実際にその行動を起こそうとさせる行動喚起力、つまり説得力が求められる。たとえば、「地震が起きたときに高台に避難する。」というルールを学んだとしたとき、内容を理解しても、実際の行動を喚起しなければ、防災マニュアルの本来の目的を達成したことにはならない。本研究は、防災マニュアルにしばしば含まれている数値情報に着目し、防災マニュアルで利用される数値情報の有無と内容を操作し、数値情報が説得力に与える影響を明らかにすることを目的とする。

方法

実験参加者 大学生18名が参加した。

材料 文章による防災情報を12種作成した。個々の文章の構成は、(1)タイトル(〇〇をしましょう)、(2)導入(災害に備え、〇〇をしましょう)、(3)確率文(ある機関の調査によれば、〇〇をしておけば、□□%の確率で役立ちます)、(4)行動明示文(〇〇をしましょう)とした。〇〇には、たとえば「非常用持ち出し袋の準備」などのテーマを設定した。また、確率文の有無と□□に入れる数値を操作し、個々の防災情報につき、(1)高確率条件:行動が役立つ可能性が高い(平均80%)、(2)低確率条件:行動が役立つ可能性が低い(平均20%)、(3)数値なし条件:数値情報がない、の3条件を設定した。以上により、合計36種の文章を作成した。

手続き 以下の試行を36試行行った。実験参加者に材料を提示し、その情報について次の6つの質問に答えることを求めた。

- (1) 説得効果:あなたは自分自身でこの対策をしようと思えますか?
- (2) 主観的説得力:この説明は、説得力があると思

ますか?

- (3) 主観的分かりやすさ:この説明は、分かりやすいと思えますか?
- (4) 恐怖感:この説明は、恐怖感を喚起すると思えますか?
- (5) 信頼感:この説明は、信頼できると思えますか?
- (6) 安心感:この説明の内容を実行することで、安心を感じると思えますか?

それぞれの質問には、「1:全くそう思わない~5:とてもそう思う」の5段階で評価することを求めた。

結果と考察

36種の材料それぞれについて、参加者の評定値を平均してサンプルとし、図1に示すモデルで共分散構造分析を行った。ただし、説得力因子の誤差分散が負に推定されたが、この値を0に制約して分析することの妥当性を吟味し、その結果問題がないと判断した。その結果、 $\chi^2(9)=15.340$ ($p=.082$)、 $GFI=.899$ 、 $CFI=.954$ 、 $RMSEA=.124$ を得た。やや適合度が低いが、解釈可能性などから最終モデルとして採択した。

考察として、次の4点にまとめることができる。

- (1) 説得力には、数値情報の単なる存在ではなく、その内容が影響する。
- (2) 数値情報により、信頼感、安心感が高まり、それを介して説得力が高まる。
- (3) 数値情報から主観的分かりやすさ、恐怖感を介した説得効果はない。
- (4) 数値情報からの説得効果において、信頼感、安心感を介す以外の直接効果がある。

付記

本研究は、平成20年度三菱財団社会福祉事業並びに研究助成の支援を受けた。

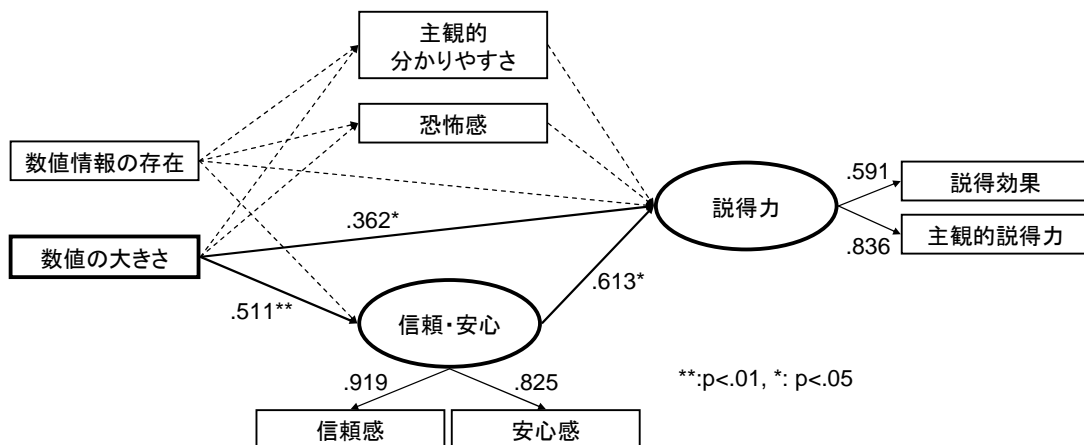


図1: 共分散構造分析における仮定したモデルと結果. 相関と誤差の表示は省略した. 実線は $p < .05$, 波線は $p > .10$ であったパスを示す. 因子負荷はすべて実線で示した. パス係数は標準化されたものである.